

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：32203

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K18050

研究課題名(和文) ベルト式骨格筋電気刺激を用いた治療的透析ケアの新戦略

研究課題名(英文) New strategy of therapeutic dialysis care with Belt electrode skeletal muscle electrical stimulation.

研究代表者

田村 由馬 (Tamura, Yuma)

獨協医科大学・医学部・研究員

研究者番号：60727585

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は透析期糖尿病性腎症透析患者における、B-SESを用いた血糖上昇抑制および骨格筋機能改善による治療的透析ケアの検討である。急性効果として糖尿病性腎症透析患者11例に対して、透析中に補助栄養を摂取し、その後B-SESを実施した結果、血糖上昇抑制と透析後24時間の平均血糖変動幅の改善を認めた。また、長期効果として3ヶ月間の一部の症例数においてはB-SES実施により有意な血糖コントロールの改善や骨格筋機能の改善は認めなかったが、顕著な改善例も認められ、透析中のB-SES実施は骨格筋機能や耐糖能の改善に一部有用である可能性を示唆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

糖尿病性腎症による透析患者は透析起因性高血糖のリスクを有し、厳格な血糖コントロールが必要となる。さらに平均血糖変動幅が3.9mmol/dlを超える患者では心疾患リスクが上昇する。本研究の介入により、血糖上昇や24時間の血糖変動の改善を認め、透析起因性高血糖の是正に加え、心疾患リスクの軽減に寄与する可能性を示した。また、3ヶ月間のB-SESの実施により血糖コントロールや骨格筋機能の改善を一部の患者群で認めた。透析中のB-SES実施は非薬物療法として効果を認め、新たな透析治療の一助となった。

研究成果の概要(英文)：In this study is investigate therapeutic dialysis care by the B-SES to suppress blood glucose elevation and improve skeletal muscle function in dialysis patients with diabetic nephropathy. subjects were 11 patients with end-stage diabetic kidney disease undergoing hemodialysis.

【Acute effect】As a result of taking supplemental nutrition during dialysis and then performing B-SES, suppression of blood glucose elevation and improvement in the average blood glucose fluctuation range 24 hours after dialysis were observed.

【Continuous effect for 3 months】In some cases, B-SES improved blood glucose control and skeletal muscle function. It was suggested that B-SES during dialysis may be useful for improving skeletal muscle function and glucose tolerance.

研究分野：腎臓リハビリテーション

キーワード：腎臓リハビリテーション 骨格筋電気刺激 透析療法

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

新規透析導入者の 44% は糖尿病性腎症が原疾患であり、糖尿病および人工透析はいずれも独立した心血管イベントである。透析患者は腎性貧血、尿毒症性低栄養、骨格筋減少症と機能異常、運動耐容能の低下などが認められる¹。透析患者へのリハビリテーション(リハ)は最大酸素摂取量増加、低栄養の改善、透析効率の改善、死亡率の低下などに有用であると報告されている²。さらに骨格筋に関しても蛋白質同化の促進³など、骨格筋減少に対する改善効果が示された。透析中のリハは、定期的な医療監視の下に行う運動であることから運動アドヒアランスや安全性の観点からも有利である。

透析中の骨格筋電気刺激(EMS)は、安全性と効果が確認され、透析効率の改善や下肢筋力増強、6分間歩行距離の延長が認められた⁴。EMS機器は双極誘導のスポット電極が用いられてきたが、近年電極がベルト式で電気抵抗を最大限緩和させた波形(指数関数的漸増波)での低周波治療器が開発された(ホーマイオン,オートテンスプロ リハビリユニット、ベルト式骨格筋電気刺激装置; B-SES)。糖尿病患者への B-SES 施行は速筋に鋭敏に作用して糖輸送担体である GLUT4 やミトコンドリア調節転写因子である PGC1 を活性化しインスリン非依存的かつ依存的に糖の細胞内取り込みを増やし血糖を下げることで報告された⁵。糖尿病性腎症による透析患者において透析中の著明な血糖低下者は「透析起因性高血糖(透析終了後の血糖上昇)」のリスクを有し、透析液の変更など厳格な血糖コントロールが必要となる⁶。EMSによる透析治療中の血糖変動および骨格筋異化抑制に関する報告はなく、本研究は EMSによる骨格筋異化抑制および食後高血糖の抑制効果や骨格筋改善に伴う透析中の低血糖の抑止効果を検討する事である。非薬物療法として臨床的検討意義が高い。

2. 研究の目的

研究 1: 糖尿病性腎症透析患者を対象とし、透析中の単回の NMES 施行における血糖上昇抑制効果を解明する。

研究 2: 3 か月間透析中に EMS を施行し、骨格筋異化の抑制効果および血糖変動の安定化と安静時の血糖低下に関する長期効果を検証する。

3. 研究の方法

対象: 糖尿病性腎症による維持透析患者で、透析中のリハビリが実施可能な患者とし、研究の趣旨を理解し同意された方を対象とする。

除外基準: 研究に同意を得られなかった患者。ペースメーカー挿入など EMS 使用の禁忌に該当する患者(骨格筋電気刺激ガイドライン)、主治医が本臨床試験を実施するに当たり不相当と認めた患者。

研究デザイン: 前向き介入クロスオーバー比較試験

(1) 透析患者への補助栄養摂取後の血糖上昇を EMS 施行により抑制する急性効果

透析期糖尿病性腎症患者 11 例において、透析中に補助栄養(300Kcal)を摂取し、その後 EMS 実施(30分)と Control(EMS 非実施)の 2 施行を一週間後の別日に実施した。

(2) 無作為化クロスオーバー比較試験による EMS の 3 ヶ月間継続施行による、グリコアルブミンを指標とした血糖コントロールおよび膝伸展筋力および筋輝度を用いて骨格筋機能改善効果を検討した。

4. 研究成果

(1) 透析患者への補助栄養摂取後の血糖上昇を EMS 施行により抑制する急性効果

透析期糖尿病性腎症患者 11 例において (表 1) 透析中に補助栄養 (300Kcal) を摂取し、その後 EMS 実施 (30 分) と非実施の 2 施行を一週間後の別日に実施した。EMS の実施により血糖値は補助栄養摂取後 60 分、90 分、120 分時で有意な低下を認めた ($p < 0.01$)。乳酸値は摂取後 60 分時に NMES 実施で有意に上昇を認めた ($p < 0.01$, vs. 非実施)。C-ペプチド濃度は両群で有意差を認めなかった。透析後 24 時間の平均血糖変動幅 (MAGE) は非実施と比較し EMS 群において有意 ($p = 0.028$) に低値を示した (図 1)。以上より EMS の施行は、透析中の補助栄養摂取による血糖上昇を抑制し、メカニズムとしてインスリン非依存的な血糖降下と考えられ、乳酸が高値を示した事より、糖分解の促進による血糖降下が考えられた。栄養療法と EMS の透析中の併用は、血糖上昇や変動のリスクを軽減し、骨格筋改善に有用な腎臓リハビリ手法となり得る事を示唆した。栄養療法と EMS の透析中の併用は、血糖上昇や変動のリスクを軽減し、骨格筋改善に有用な腎臓リハビリ手法となり得る事を示唆した。

(2) 3 ヶ月間透析中の EMS 施行による血糖コントロールと骨格筋機能の改善効果

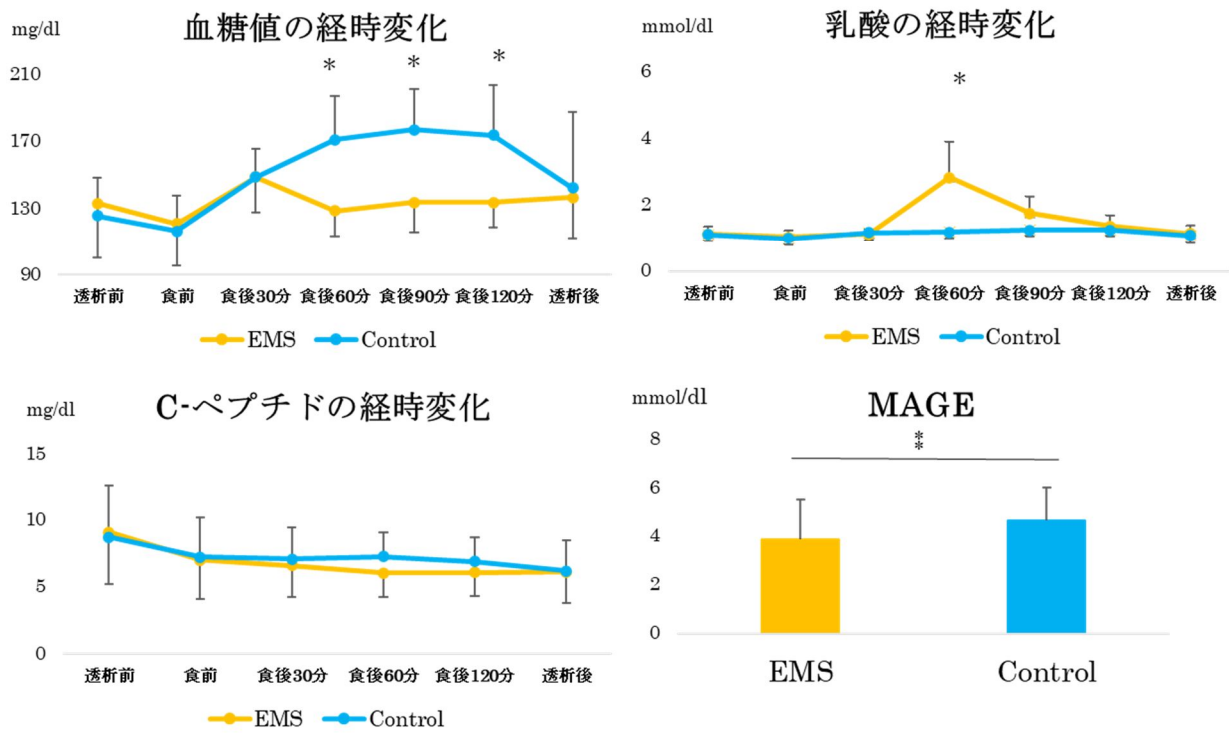
グリコアルブミンを指標とした血糖コントロールおよび膝伸展筋力および筋輝度を用いて骨格筋機能改善効果を検討した。慢性効果を終了した 7 例において EMS 施行により、グリコアルブミンは -1.5% 改善傾向であったが統計学的有意差は認めなかった (表 2)。骨格筋機能においても膝伸展筋力は +2.7kgf、筋輝度は -10.6 と改善傾向であったが統計学的有意差は認めなかった (図 2)。一部患者群において著明に改善しており、透析中の B-SES 実施の Responder、Non-Responder の検討が必要である。

Parameter	n=11
Age(years)	74.0±5.2
male/female(n)	7/4
Duration of HD(months)	32.9±20.0
BMI(kg/m ²)	22.7±3.9
Medication	
インスリン	3
GLP-1	2
DPP-4	4
α-GI	4

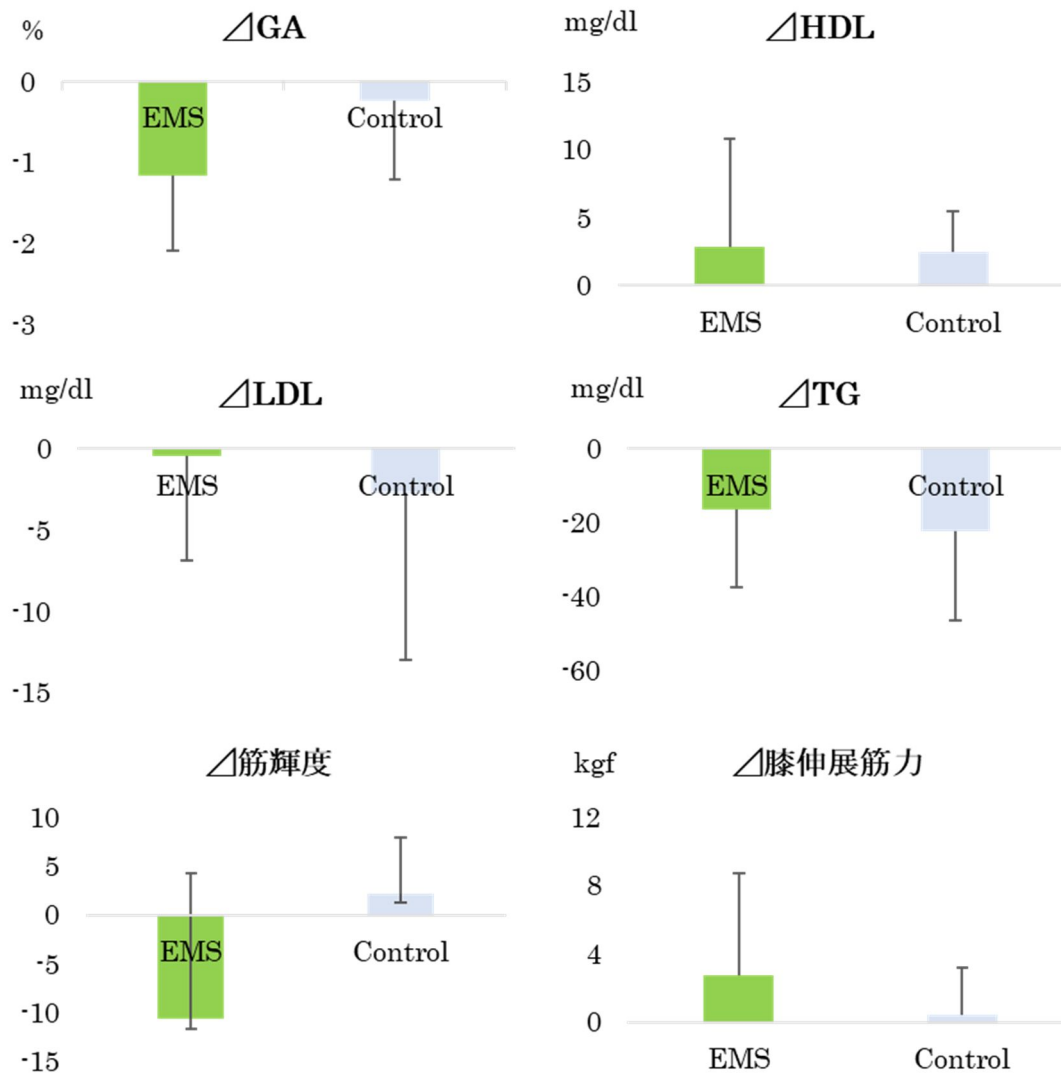
表 (1) 対象者の背景

	Control		EMS		Control vs EMS
	Pre	Post	Pre	Post	
Body mass (kg)	59.0±16.6	59.0±06.5	59.2±16.4	59.8±16.0	ns
Body mass Index (kg/m ²)	23.8±4.5	23.8±4.6	23.9±4.5	24.1±4.4	ns
Glycoalbumin (%)	18.6±1.3	18.4±1.8	18.6±1.7	17.4±1.4	ns
HDL-cholesterol (mg/dl)	42.0±10.4	44.4±11.7	42.0±7.6	44.8±11.5	ns
LDL-cholesterol (mg/dl)	55.2±16.9	52.5±12.7	56.4±14.5	56.0±17.0	ns
Triacylglycerol (mg/dl)	116.0±49.0	93.7±44.7	113.0±31.3	96.7±37.1	ns

表 (2) 体重とグリコアルブミン、脂質プロファイルの変化



図(1) EMS 実施の有無による透析中の血糖値、乳酸、C-ペプチドの経時的変化と透析後 24 時間の平均血糖変動幅 (MAGE) の変化。* p<0.01、** p<0.05



図(2) 3ヶ月間のEMS実施の有無による各種評価項目の変化

引用文献

1. Kosmadakis GC, Bevington A, Smith AC, et al. Physical exercise in patients with severe kidney disease. *Nephron Clinical practice* 2010;115:c7-c16.
2. Segura-Orti E. Exercise in haemodialysis patients: a literature systematic review. *Nefrologia : publicacion oficial de la Sociedad Espanola Nefrologia* 2010;30:236-46.
3. Pupim LB, Flakoll PJ, Levenhagen DK, Ikizler TA. Exercise augments the acute anabolic effects of intradialytic parenteral nutrition in chronic hemodialysis patients. *American journal of physiology Endocrinology and metabolism* 2004;286:E589-97.
4. Dobsak P, Homolka P, Svojanovsky J, et al. Intra-dialytic electrostimulation of leg extensors may improve exercise tolerance and quality of life in hemodialyzed patients. *Artificial organs* 2012;36:71-8.
5. Miyamoto T, Fukuda K, Kimura T, Matsubara Y, Tsuda K, Moritani T. Effect of percutaneous electrical muscle stimulation on postprandial hyperglycemia in type 2 diabetes. *Diabetes research and clinical practice* 2012;96:306-12.
6. 日本透析医学会. <維持血圧透析ガイドライン>. 日本透析医学会誌 2011;44.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 Shimizu Riha, Fukuda Hirotsugu, Kikuchi Yuji, Yanaka Hirokazu, Hata Nobuhiro, Yamazaki Masashi, Nakatani Yuki, Tamura Yuma, Yamakoshi Seiko, Kawabe Atsuhiko, Horie Yasuto, Sugimura Hiroyuki, Matsushita Yasushi, Nakamoto Takaaki, Yasu Takanori	4. 巻 35
2. 論文標題 Clinically feasible method for assessing leukocyte rheology in whole blood	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Heart and Vessels	6. 最初と最後の頁 268 ~ 277
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00380-019-01486-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田宮創, 田村由馬, 安隆則	4. 巻 15
2. 論文標題 解剖図&コマ送り写真ですぐわかる 患者に説明できる運動器のしくみと室内でできる運動療法】患者タイプ別室内でできる運動療法 動く機会の減った高齢患者(図説/特集)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 糖尿病ケア	6. 最初と最後の頁 619-625
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 餅 脩佑, 赤澤祐介, 田村由馬, 飯塚裕介, 永坂優美, 矢野雄一郎, 長田伝重	4. 巻 8
2. 論文標題 広範囲腱盤断裂に対してリバーズ型人工肩関節置換術と肩甲下筋移行術およびL'Episcopo変法による広背筋移行術の同時施行を実施した症例 - 術後8ヶ月までの経過 - .	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 理学療法とちぎ	6. 最初と最後の頁 12-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林薫, 田村由馬 .	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 身体活動量の評価 基礎と実際	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 理学療法とちぎ	6. 最初と最後の頁 47-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 須藤誠、田村由馬、落合香、田宮創、江原恭介、餅脩佑、工藤玲佳、河邊篤彦、上野明日香、上間貴子、石川まゆ子、堀江康人、杉村浩之、安隆則。	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 CAODを用いた入院と外来心臓リハビリテーション患者の作業機能障害の比較	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 心臓リハビリテーション	6. 最初と最後の頁 75-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 餅脩佑、田村由馬、落合香、江原恭介、田宮創、上野明日香、石川まゆ子、清水理葉、松下恭 福田宏嗣、堀江康人、杉村 浩之、上月正博、安隆則。	4. 巻 23(2-4)
2. 論文標題 骨格筋電気刺激を含む段階的リハが奏効した慢性血栓塞栓性肺高血圧症の1例	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 心臓リハビリテーション	6. 最初と最後の頁 179-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 工藤 玲佳、田村 由馬、田宮 創、落合 香、餅 脩佑、須藤 誠、江原 恭介、永坂 優美、寺島 雅人、鶴見 知己、坪山 優、小野崎 智寿子、山口 佳奈、原 弘子、板倉 朋世、齋藤 ゆみ、杉村 浩之、堀江 康人、上野 明日香、星合 愛、安 隆則。	4. 巻 6
2. 論文標題 運動中の映像視聴による運動効率と自律神経活動への影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Total Rehabilitation Research	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 落合香、田村由馬、江原恭介、清水理葉、松下恭、安隆則。	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 重症下肢虚血を呈す末梢動脈疾患患者へのB-SESを用いたブリッジ療法	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 理学療法科学	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松井瞭友、田村由馬、山越聖子、寺島雅人、鶴見知己、安 隆則	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 透析患者への下肢骨格筋電気刺激が下肢の除水に与える影響について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 理学療法とちぎ	6. 最初と最後の頁 41-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田宮 創、田村由馬、餅 脩佑、赤澤祐介、永坂優美、伴場信之、安 隆則 .	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 糖尿病性腎症における活動量計及び質問紙の身体活動量の差異	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 理学療法とちぎ	6. 最初と最後の頁 29-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寺島雅人、田村由馬、落合 香、高橋英里、田宮 創、江原恭介、工藤玲佳、鶴見知己、山口佳奈、星合愛、安 隆則 .	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 メディックスクラブ併用により運動アドヒアランスが向上した壮年期心不全の1例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 理学療法とちぎ	6. 最初と最後の頁 51-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鶴見知己、田村由馬、田宮 創、寺島雅人、工藤玲佳、須藤誠、小倉佳子、大西優子、下山正博、星合愛、上野明日香、堀江康人、安 隆則	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 当センターにおける透析中の理学療法	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 理学療法とちぎ	6. 最初と最後の頁 67-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江原恭介、田村由馬、落合 香、工藤玲佳、松井瞭友、永坂優美、田宮 創、須藤 誠、清水理葉、松下恭、杉村浩之、安 隆則	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 末梢動脈疾患患者に対する心肺運動負荷試験の負荷方法での比較	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 理学療法とちぎ	6. 最初と最後の頁 45-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 須藤誠、田村由馬、工藤玲佳、鶴見知己、寺島雅人、田宮創、餅脩佑、江原恭介、落合香、星合愛、上野明日香、上間貴子、杉村浩之、堀江康人、安隆則	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 急性心筋梗塞患者の作業機能障害に対する作業療法～CAODを用いて～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心臓リハビリテーション	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田村由馬、江原恭介、田宮創、工藤玲佳、寺島雅人、鶴見知己、須藤誠、落合香、高橋英里、星合愛、上野明日香、清水理葉、松下恭、福田宏嗣、安隆則	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 末梢動脈疾患患者への下肢バイブラバス施行による歩行への急性効果	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 理学療法とちぎ	6. 最初と最後の頁 33-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田村由馬、工藤玲佳、田宮創、寺島雅人、鶴見知己、須藤誠、関谷直樹、小林孝次、福田瑞恵、矢嶋俊一、中口和彦、安隆則	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 軽度介護認定者の塩分摂取量と活動量と降圧薬処方への調査 - 通所介護施設における多施設共同横断研究 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 理学療法とちぎ	6. 最初と最後の頁 13-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計113件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 鶴見知己、田村由馬、田宮創、寺島雅人、星合愛、上野明日香、石川まゆ子、下山正博、中谷祐己、堀江康人、安隆則
2. 発表標題 透析中の神経筋電気刺激は平均血糖変動幅（MAGE）を低下させる
3. 学会等名 第10回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田宮創、田村由馬、伴場信之、安隆則
2. 発表標題 理学療法士による運動指導が糖尿病性腎症患者の脂質代謝、腎機能、新規心大血管疾患発症リスクに与える影響
3. 学会等名 第10回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大館隼、柏崎尚大、田村由馬、江原恭介
2. 発表標題 維持期パーキンソン病患者に対し、トレッドミル歩行を用いた症例
3. 学会等名 栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鶴見知己、田村由馬、田宮創、寺島雅人、安隆則
2. 発表標題 透析中の神経筋電気刺激は腎系患者の血糖コントロールを改善する
3. 学会等名 第23回栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 寺島雅人, 田村由馬, 田宮創, 鶴見知己, 星合愛, 上野明日香, 安隆則
2. 発表標題 心疾患患者の下肢筋質評価は運動耐容能の規定要因となる
3. 学会等名 第56回日本臨床生理学会 総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 寺島雅人, 田村由馬, 鶴見知己, 安隆則
2. 発表標題 回復期心臓リハビリテーション患者における運動耐容能と超音波を用いた筋質評価の関係
3. 学会等名 第25回総合理学療法研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大館隼, 柏崎尚大, 田村由馬, 江原恭介
2. 発表標題 廃用症候群患者における自律神経機能と転倒リスクの関係ー副交感神経と運動機能での検討ー
3. 学会等名 第25回総合理学療法研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鶴見知己, 田村由馬, 田宮創, 寺島雅人, 小倉佳子, 大西優子, 星合愛, 堀江康人, 中元隆明, 安隆則
2. 発表標題 旅行透析患者に対する運動療法の提案
3. 学会等名 第10回国際観光医療学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 落合香、田村由馬、田宮創、寺島雅人、鶴見知己、岩上 茜、齋藤 望美、星合 愛、安隆則
2. 発表標題 骨格筋電気刺激が微小循環に与える影響 ~in vivid とex vivoでの観察
3. 学会等名 第4回日本心臓リハビリテーション学会関東甲信越支部地方会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鶴見知己、田村由馬、田宮創、寺島雅人、星合愛、上野明日香、石川まゆ子、下山正博、中谷祐己、安隆則
2. 発表標題 糖尿病性腎症維持透析患者に対する透析中の神経筋電気刺激が血糖変動に与える影響
3. 学会等名 第4回日本心臓リハビリテーション学会関東甲信越支部地方会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹内真由、鶴見知己、田村由馬
2. 発表標題 透析中の神経筋電気刺激によるマイオカインの急性変化
3. 学会等名 第4回日本心臓リハビリテーション学会関東甲信越支部地方会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 寺島雅人、田村由馬、田宮創、落合香、江原恭介、工藤玲佳、鶴見知己、星合愛、安隆則
2. 発表標題 心疾患患者における疾患背景が骨格筋の質的評価に与える影響
3. 学会等名 第4回日本心血管理学療法学会 学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鶴見知己、田村由馬、田宮創、寺島雅人、星合愛、上野明日香、石川まゆ子、下山正博、中谷祐己、安隆則
2. 発表標題 3ヶ月間の神経筋電気刺激により血糖変動と酸化ストレスが改善した糖尿病性腎症維持透析患者の1例
3. 学会等名 第6回日本糖尿病理学療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村由馬、田宮創、安隆則
2. 発表標題 糖尿病透析予防指導における理学療法士の介入効果
3. 学会等名 第6回日本糖尿病理学療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田宮創、田村由馬、安隆則
2. 発表標題 座位時間の延長は腎疾患患者の腎機能低下を助長させる
3. 学会等名 第38回日本臨床運動療法学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 星合 愛、田村 由馬、鶴見 知己、寺島 雅人、田宮 創、長尾 萌子、巴 崇、杉山 拓史、上野 明日香、上間 貴子、堀江 康人、杉村 浩之、安 隆則
2. 発表標題 高齢肺動脈性肺高血圧症に対してPGI2持続皮下注と心臓リハビリを導入し、再入院を防止できた一例.
3. 学会等名 第38回日本臨床運動療法学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鶴見知己、田村由馬、田宮創、寺島雅人、星合愛、堀江康人
2. 発表標題 透析中の骨格筋電気刺激は補助栄養摂取による血糖上昇を抑制する
3. 学会等名 第29回病態生理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江原恭介、田村由馬、田宮創、寺島雅人、鶴見知己、須藤誠、清水理葉、松下恭、福田宏嗣、星合愛、上野明日香、堀江康人、安隆則
2. 発表標題 末梢動脈疾患運動療法における下肢温浴の付加治療効果の検討
3. 学会等名 第25回心臓リハビリテーション学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 須藤誠、田村由馬、田宮創、落合香、江原恭介、寺島雅人、工藤玲佳、鶴見知己、星合愛、上野明日香、安隆則
2. 発表標題 高齢心房細動患者のフレイルと作業機能障害、QOL関連環境要因に与える車運転状況の影響
3. 学会等名 第25回心臓リハビリテーション学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 寺島雅人、田村由馬、田宮創、落合香、江原恭介、餅脩佑、工藤玲佳、鶴見知己、須藤誠、星合愛、安隆則
2. 発表標題 高血圧を呈す維持期心臓リハビリ患者に対するベルト式骨格筋電気刺激を用いた降圧効果の検討
3. 学会等名 第25回心臓リハビリテーション学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鶴見知己、田村由馬、田宮創、寺島雅人、星合愛、上野明日香、下山正博、石川まゆ子
2. 発表標題 透析患者の転倒に骨格筋の質の低下が影響する。
3. 学会等名 第25回心臓リハビリテーション学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 星合 愛、田村 由馬、落合 香、田宮 創、江原 恭介、寺島 雅人、鶴見 知己、長尾 萌子、巴 崇、杉山 拓史、上野 明日香、上間 貴子、堀江 康人、杉村 浩之、安 隆則
2. 発表標題 大胸筋電気刺激の安全性と効果の検討
3. 学会等名 第25回心臓リハビリテーション学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村由馬、田宮創、落合香、寺島雅人、鶴見知己、星合愛、上野明日香、安隆則
2. 発表標題 超音波による簡易的な筋質評価の有用性
3. 学会等名 第25回心臓リハビリテーション学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村由馬、田宮創、落合香、寺島雅人、鶴見知己、星合愛、上野明日香、安隆則
2. 発表標題 骨格筋電気刺激治療の実際と評価
3. 学会等名 第25回心臓リハビリテーション学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松井瞭友, 田村由馬, 田宮創, 鶴見知己
2. 発表標題 維持透析患者の生活範囲における単施設観察研究
3. 学会等名 第64回日本透析医学会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹内真由, 鶴見知己, 田村由馬
2. 発表標題 維持透析患者におけるNMESを用いた認知症伸展抑制の可能性
3. 学会等名 第24回総合理学療法研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鶴見知己, 田村由馬, 田宮創, 寺島雅人, 星合愛, 上野明日香, 石川まゆ子, 下山正博, 堀江康人, 安隆則
2. 発表標題 透析中の骨格筋電気刺激は補助栄養摂取による血糖上昇を抑制する
3. 学会等名 栃木県心血管リハビリテーション研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 M. Terashima, Y. Tamura, T. Tsurumi, K. Ochiai, A. Ueno, M. Hoshiai, Y. Nakatani, Y. Matsushita, R. Shimizu, Y. Horie, H. Sugimura, T. Yasu.
2. 発表標題 Factors contributing to increased muscle echo intensity in cardiac rehabilitation patients.
3. 学会等名 12th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Y. Tamura, M. Terashima, T. Tsurumi, M. Sudo, H. Tamiya, M. Hoshiai, A. Ueno, R. Shimizu, Y. Nakatani, Y. Horie, H. Sugimura, T. Yasu.
2 . 発表標題 Relationship between lower limb skeletal muscle echo intensity and oxygen uptake in cardiac rehabilitation patients.
3 . 学会等名 12th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 H. Tamiya, Y. Tamura, S. Mochi, A. Yusuke, N. Banba, T. Yasu.
2 . 発表標題 Extended sedentary time in diabetic nephropathy increases the risk of all - cause death and new cardiovascular events.
3 . 学会等名 12th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 T. Tsurumi, Y. Tamura, H. Tamiya, M. Terashima, M. Hoshiai, A. Ueno, M. Ishikawa, M. Shimoyama, Y. Nakatani, Y. Horie, T. Yasu.
2 . 発表標題 Effects of exercise training during hemodialysis on lower limb skeletal muscle function and short physical performance battery in patients with end stage renal failure.
3 . 学会等名 12th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 M. Sudo, Y. Tamura, R. Kudo, M. Terashima, T. Tsurumi, H. Tamiya, K. Ochiai, K. Ehara, M. Hoshiai, A. Ueno, T. Yasu.
2 . 発表標題 Study of occupational dysfunction and daily activities useful in the prevention of frailty in elderly patients with atrial fibrillation.
3 . 学会等名 12th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 工藤玲佳, 田村由馬, 田宮創, 須藤誠, 落合香, 山口佳奈, 星合愛, 上野明日香, 安隆則
2. 発表標題 軽度介護認定者の塩分摂取量と座位時間に関する横断研究と多職種研修会による改善効果
3. 学会等名 第12回栃木県心血管リハビリテーション研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江原 恭介, 田村 由馬, 須藤 誠, 工藤 玲佳, 寺島 雅人, 鶴見 知己, 星合 愛, 上野 明日香, 清水 理葉, 松下 恭, 福田 宏嗣, 安隆則.
2. 発表標題 歩行機能が改善した末梢動脈疾患患者における心理的要因の一考察.
3. 学会等名 第46回日本血管外科学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田村由馬, 寺島雅人, 鶴見知己, 星合愛, 上野明日香, 石川まゆ子, 下山正博, 堀江康人, 安隆則
2. 発表標題 透析中の運動療法によるSPPBの変化と関連要因
3. 学会等名 第63回日本透析医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鶴見 知己, 田村 由馬, 田宮 創, 寺島 雅人, 星合 愛, 上野 明日香, 石川 まゆ子, 下山 正博, 堀江 康人, 安 隆則.
2. 発表標題 3ヶ月間の透析中の運動療法における骨格筋とShort Physical Performance Battery の変化.
3. 学会等名 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須藤 誠, 田村 由馬, 工藤 玲佳, 寺島 雅人, 鶴見 知己, 田宮 創, 落合 香, 江原 恭介, 星合 愛, 上野 明日香, 安 隆則.
2. 発表標題 地域在住高齢者におけるフレイルと作業機能障害, 環境要因の関連.
3. 学会等名 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須藤 誠, 田村 由馬, 江原 恭介, 田宮 創, 落合 香, 工藤 玲佳, 寺島 雅人, 鶴見 知己, 上野 明日香, 星合 愛, 安 隆則.
2. 発表標題 後期高齢者心房細動患者のフレイル予防に有用な生活行動と作業機能障害の検討.
3. 学会等名 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田村 由馬, 工藤 玲佳, 須藤 誠, 寺島 雅人, 鶴見 知己, 田宮 創, 上野 明日香, 下山 正博, 星合 愛, 清水 理葉, 安 隆則.
2. 発表標題 地域在住要介護者の塩分および座位時間と服薬状況の関連 - 通所系介護施設共同研究による調査 - .
3. 学会等名 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江原恭介, 田村由馬, 田宮創, 須藤誠, 落合 香, 高橋英里, 寺島 雅人, 鶴見 知己, 清水 理葉, 松下恭, 福田 宏嗣, 星合 愛, 上野 明日香, 杉村 浩之, 堀江 康人, 安隆則.
2. 発表標題 PADに対する運動療法効果を高める新たな一手の模索.
3. 学会等名 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田宮創, 田村由馬, 餅脩佑, 赤澤祐介, 永坂優美, 伴場信之, 安隆則.
2. 発表標題 糖尿病性腎症(DMN)患者における座位時間の延長は新規心血管リスクと腎機能の低下を助長させる.
3. 学会等名 第5回日本糖尿病病理学療法学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 寺島雅人, 田村由馬, 鶴見知己, 落合香.
2. 発表標題 膝関節痛の増悪なく減量に成功した高度肥満症患者の1症例.
3. 学会等名 第5回日本糖尿病病理学療法学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 落合香, 田村由馬, 工藤玲佳, 須藤誠, 山越聖子, 田宮創, 鶴見知己, 寺島雅人, 星合愛, 安隆則.
2. 発表標題 地域向け心臓リハビリテーション多職種研修会の開催は介護認定者の減塩効果に有用か.
3. 学会等名 第3回日本心血管管理学療法学会学術大会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 工藤玲佳, 田村由馬, 田宮創, 須藤誠, 落合香, 山口佳奈, 星合愛, 上野明日香, 安隆則.
2. 発表標題 介護職員に対する心・血管疾患予防の多職種研修会開催効果-軽度介護認定者の減塩効果-.
3. 学会等名 第3回日本心血管管理学療法学会学術大会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 寺島 雅人, 田村 由馬, 田宮 創, 鶴見 知己, 落合 香, 高橋 英里, 星合 愛, 安 隆則.
2. 発表標題 心疾患患者における骨格筋内への脂肪蓄積は,運動耐容能低下の規定要因となる.
3. 学会等名 第37回日本臨床運動療法学会学術集会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江原 恭介, 田村 由馬, 須藤 誠, 田宮 創, 落合 香, 工藤 玲佳, 寺島 雅人, 鶴見 知己, 清水 理葉, 松下 恭, 福田 宏嗣, 星合 愛, 上野 明日香, 杉村 浩之, 堀江 康人, 安 隆則.
2. 発表標題 末梢動脈疾患患者の在宅運動療法継続可否に關与する心理的要因. 第37回日本臨床運動療法学会学術集会.
3. 学会等名 第37回日本臨床運動療法学会学術集会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山越 聖子, 田村 由馬, 安 隆則.
2. 発表標題 心疾患患者に対する高強度インターバルトレーニングによる血圧,可溶性(プロ)レニン受容体発現の変化.
3. 学会等名 第37回日本臨床運動療法学会学術集会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鶴見知己, 田村由馬, 田宮創, 寺島雅人, 星合愛, 上野明日香, 石川まゆ子, 下山正博, 安隆則.
2. 発表標題 透析中の骨格筋電気刺激において食後血糖変動を調査した1例.
3. 学会等名 第37回関東甲信越ブロック理学療法士学会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 工藤玲佳, 田村由馬, 田宮創, 須藤誠, 落合香, 星合愛, 上野明日香, 安隆則.
2. 発表標題 軽度介護認定者の座位時間における服薬数の影響.
3. 学会等名 第37回関東甲信越ブロック理学療法士学会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松井瞭介, 田村由馬, 寺島雅人, 鶴見知己, 須藤誠, 上野明日香, 安隆則.
2. 発表標題 維持透析患者の生活範囲における単施設観察研究.
3. 学会等名 第37回関東甲信越ブロック理学療法士学会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 寺島雅人, 田村由馬, 須藤 誠, 田宮 創 , 落合 香 , 高橋英里.
2. 発表標題 心疾患患者における骨格筋内への脂肪蓄積は運動耐容能低下の規定要因となる.
3. 学会等名 第37回関東甲信越ブロック理学療法士学会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山越 聖子, 田村由馬, 安隆則.
2. 発表標題 心疾患患者に対する高強度インターバルトレーニングが血圧と血漿可溶性(プロ)レニン受容体発現に与える影響.
3. 学会等名 第2回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 寺島雅人, 田村由馬, 鶴見知己.
2. 発表標題 B-SESと非荷重運動の併用で膝関節痛の増悪なく減量に奏功した高度肥満症の一症例.
3. 学会等名 第5回日本骨格筋電気刺激研究会学術集会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須藤 誠, 飯塚裕介, 鎌田春香, 田村由馬, 安隆則.
2. 発表標題 地域在住高齢者における趣味, 運動習慣が作業機能障害に与える影響.
3. 学会等名 第9回栃木県作業療法学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯塚裕介, 須藤 誠, 鎌田春香, 田村由馬, 渡邊由佳.
2. 発表標題 急性期における多職種協働により身体拘束の解除につながった症例.
3. 学会等名 第9回栃木県作業療法学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須藤 誠, 田村 由馬, 工藤 玲佳, 寺島 雅人, 鶴見 知己, 田宮 創, 落合 香, 江原 恭介, 星合 愛, 上野 明日香, 安 隆則.
2. 発表標題 後期高齢心房細動患者のBNP値に対する生活行動と作業機能障害の影響.
3. 学会等名 日本心臓リハビリテーション学会第3回関東甲信越部地方会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田村由馬, 寺島雅人, 餅脩佑, 田宮創, 落合香, 高橋英里, 江原恭介, 安隆則.
2. 発表標題 高血圧を呈す維持期心臓リハビリ患者のB-SESを用いた降圧効果.
3. 学会等名 第5回日本骨格筋電気刺激研究会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須藤 誠, 田村由馬, 飯塚裕介, 鎌田春香, 岩上茜, 安隆則.
2. 発表標題 心臓リハビリテーションにおける作業療法士の新たな役割.
3. 学会等名 平成30年度獨協医科大学教育セミナー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安 隆則, 河邊 篤彦, 星合 愛, 高橋 英里, 餅 脩佑, 田村 由馬.
2. 発表標題 心臓リハビリテーションのトピックス 慢性血栓塞栓症肺高血圧の肺動脈拡張術後のリハビリテーション医療.
3. 学会等名 第55回日本リハビリテーション医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安 隆則, 須藤 誠, 田村 由馬.
2. 発表標題 心疾患と認知症に関するオーバービューと当院における取り組み.
3. 学会等名 第66回日本心臓病学会学術集会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安 隆則, 田村 由馬, 高橋 英里, 餅 脩佑, 河邊 篤彦, 杉山 拓史, 星合 愛, 上間 貴子, 上野 明日香, 堀江 康人, 杉村 浩之, 長尾 萌子.
2. 発表標題 慢性血栓性肺高血圧症に対する肺動脈拡張術後リハビリテーション.
3. 学会等名 第66回日本心臓病学会学術集会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安 隆則, 星合 愛, 下山 正博, 上野 明日香, 田宮 創, 田村 由馬, 落合 香, 寺島 雅人, 高橋 英里, 江原 恭介, 工藤 玲佳, 鶴見 知己, 山口 佳奈.
2. 発表標題 シャイ・ドレーガー症候群に血栓閉塞型急性大動脈解離Stanford A 合併例に心リハが難渋した1 例.
3. 学会等名 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 星合 愛, 田村 由馬, 高橋 英里, 落合 香, 寺島 雅人, 鶴見 知己, 山口 佳奈, 長尾 萌子, 巴 崇, 杉山 拓史, 上野 明日香, 上間 貴子, 下山 正博, 堀江 康人, 杉村 浩之, 安 隆則.
2. 発表標題 心房細動, 心不全, 糖尿病を伴う高度肥満の症例に対する心臓リハビリテーション.
3. 学会等名 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田村由馬, 落合香, 田宮創, 餅脩佑, 江原恭介, 安隆則.
2. 発表標題 受動的的方法によるCPX測定の可能性
3. 学会等名 第20回総合理学療法研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田村由馬, 落合香, 上野明日香, 田宮創, 餅脩佑, 江原恭介, 工藤玲佳, 寺島雅人, 高橋英里, 須藤誠, 清水理葉, 安隆則.
2. 発表標題 メディックスクラブと外来心リハの併用が奏効した1症例
3. 学会等名 第23回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tamura Y, Ochiai K, Fujiwara C, Yamaguchi K, Ueno A, Ishikawa M, Ehara K, Nagasaka Y, Mochi S, Kudou R, Yasu T.
2. 発表標題 Effects of incremental electro skeletal muscle stimulation on oxygen uptake and serum levels of lactic acid and catecholamine in healthy young Japanese.
3. 学会等名 EuroPrevent 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 須藤誠, 田村由馬, 飯塚裕介, 鎌田春香, 安隆則.
2. 発表標題 心疾患患者における作業機能障害
3. 学会等名 第4回日本臨床作業療法学会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 寺島雅人, 田村由馬, 落合香, 田宮創, 江原恭介, 松井瞭友, 永坂優美, 餅脩佑, 工藤玲佳, 安隆則.
2. 発表標題 心臓リハビリテーション患者における運動耐容能と骨格筋評価の関係について
3. 学会等名 第52回日本理学療法学会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松井瞭友, 田村由馬, 田宮創, 江原恭介, 餅脩佑, 安隆則
2. 発表標題 維持透析患者の透析前後における体水分布と骨格筋の変化について
3. 学会等名 第20回総合理学療法研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田宮創, 赤澤祐介, 永坂優美, 伴場信之, 田村由馬, 安隆則.
2. 発表標題 糖尿病性腎症 期における運動指導の有効性
3. 学会等名 第20回総合理学療法研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 江原恭介, 田村由馬, 落合香, 清水理葉, 安隆則.
2. 発表標題 末梢動脈疾患患者に対する温浴療法の作用効果
3. 学会等名 第20回総合理学療法研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 寺島雅人, 田村由馬, 田宮創, 餅脩佑, 安隆則
2. 発表標題 心疾患患者の運動耐容能と骨格筋評価の関連～筋の質的評価を含めた検討～
3. 学会等名 第20回総合理学療法研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鶴見知己,小野田公,田村由馬,久保晃.
2. 発表標題 小児の除脂肪量・脂肪量と活動量の関係
3. 学会等名 第20回総合理学療法研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 餅脩佑,田村由馬,落合香,江原恭介,田宮創,安隆則.
2. 発表標題 骨格筋電気刺激が肺高血圧症患者に及ぼす影響の検討
3. 学会等名 第20回総合理学療法研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 寺島雅人,田村由馬,田宮創,餅脩佑,落合香,江原恭介,上野明日香,安隆則.
2. 発表標題 心臓リハビリテーション患者における骨格筋超音波輝度と心・腎機能の関連
3. 学会等名 第23回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 須藤誠,田村由馬,落合香,田宮創,高橋英里,永坂優美,餅脩佑,江原恭介,山口佳奈,上野明日香,安隆則.
2. 発表標題 急性心筋梗塞患者の作業機能障害に対する作業療法～CAODを用いて～
3. 学会等名 第23回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田宮創, 田村由馬, 赤澤祐介, 永坂優美, 伴場信之, 安隆則
2. 発表標題 糖尿病性腎症 (DMN) 患者における座位時間の延長は新規心血管イベント発症及び全死亡リスクを上昇させる
3. 学会等名 日本心臓リハビリテーション学会第2回関東甲信越支部地方会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 工藤玲佳, 田村由馬, 山越聖子, 星合愛, 安隆則.
2. 発表標題 座位足閉閉テストによるサルコペニア予測の可能性.
3. 学会等名 日本心臓リハビリテーション学会第2回関東甲信越支部地方会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 落合香, 田村由馬, 江原恭介, 寺島雅人, 餅脩佑, 松井瞭友, 小野崎智寿子, 谷中弘一, 安隆則.
2. 発表標題 骨格筋電気刺激運動とサイクルエルゴメーター運動における血液流動性の比較
3. 学会等名 日本心臓リハビリテーション学会第2回関東甲信越支部地方会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 工藤玲佳, 田村由馬, 須藤誠, 田宮創, 落合香, 安隆則.
2. 発表標題 心疾患再発予防におけるポピュレーションアプローチ
3. 学会等名 第21回総合理学療法研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 江原恭介, 工藤玲佳, 田村由馬, 須藤誠, 田宮創, 落合香, 安隆則.
2. 発表標題 歩行機能が改善した末梢動脈疾患患者における心理的要因の一考察
3. 学会等名 第21回総合理学療法研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 落合香, 田村由馬, 江原恭介, 寺島雅人, 永坂優美, 餅脩佑, 松井瞭友, 小野崎智寿子, 谷中弘一, 星合愛, 安隆則
2. 発表標題 骨格筋電気刺激が若い健常者の血液流動性に与える影響
3. 学会等名 第4回日本血管血流学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 江原恭介, 落合香, 永坂優美, 田村由馬.
2. 発表標題 心筋梗塞による心停止した心肺補助中に急性呼吸窮迫症候群を発症するも社会復帰した1例
3. 学会等名 第21回栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田宮創, 永坂優美, 田村由馬, 伴場信之, 安隆則.
2. 発表標題 糖尿病性腎症における座位時間の延長は腎機能低下を助長させる
3. 学会等名 第21回栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 工藤玲佳, 田村由馬, 落合香, 餅脩佑, 安隆則.
2. 発表標題 アドヒアランス不良による狭心症を契機に透析導入となった若年症例の行動変容について
3. 学会等名 第21回栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋英里, 田宮創, 寺島雅人, 落合香, 田村由馬.
2. 発表標題 地域包括ケア病棟において退院支援に難渋した2症例
3. 学会等名 第21回栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田村由馬, 寺島雅人, 鶴見知己, 落合香, 高橋英里.
2. 発表標題 内部障害リハビリ情報交換会に関する多施設アンケート調査
3. 学会等名 第21回栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鶴見知己, 田村由馬, 高橋英里, 寺島雅人, 餅脩佑, 安隆則.
2. 発表標題 高齢肺動脈性肺高血圧患者に対してトレプロスト持続皮下注投下に安全に運動療法を実施できた1例
3. 学会等名 第21回栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 永坂優美, 赤澤祐介, 田村由馬, 長田伝重.
2. 発表標題 上腕骨近位端骨折に対し観血的手術を施行した症例～手指の関節可動域獲得に難渋した1症例～
3. 学会等名 第21回栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 赤澤祐介, 餅脩佑, 田村由馬, 矢野雄一郎, 長田伝重.
2. 発表標題 陳旧性の前距腓靭帯損傷を伴った野球肘の1例
3. 学会等名 第21回栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 君田祥一, 田宮創, 田村由馬, 安隆則, 渡邊由佳.
2. 発表標題 認知症を伴うパーキンソン病患者 (Probable DLB) にLSVT BIGを施行し運動症状の改善がみられた一例.
3. 学会等名 第21回栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松井瞭友, 山越聖子, 鶴見知己, 寺島雅人, 田村由馬.
2. 発表標題 透析患者への下肢骨格筋電気刺激は大腿の除水に有用である
3. 学会等名 第21回栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山越聖子, 落合香, 高橋英里, 寺島雅人, 田村由馬.
2. 発表標題 心房細動により目標心拍数を超えてしまう心不全患者に対して、インターバルトレーニングが奏功した一例
3. 学会等名 第21回栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 落合香, 須藤誠, 高橋英里, 寺島雅人, 田村由馬
2. 発表標題 多職種における減塩・運動に対する意識調査
3. 学会等名 第21回栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田宮創, 餅脩佑, 赤澤祐介, 永坂優美, 田村由馬, 伴場信之, 安隆則
2. 発表標題 糖尿病性腎症 (DMN) 患者における質問紙と活動量計による身体活動量の差異
3. 学会等名 第8回腎臓リハビリテーション学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須藤誠, 飯塚裕介, 鎌田春香, 田村由馬.
2. 発表標題 臨床実習指導における作業に根ざした実践2.0 (OBP2.0) の活用
3. 学会等名 第8回栃木県作業療法学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 須藤誠, 田村由馬, 中口和彦, 矢嶋俊一, 安隆則.
2. 発表標題 日光リハネット研修事業の取り組み
3. 学会等名 第8回栃木県作業療法学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 須藤誠, 飯塚裕介, 鎌田春香, 田村由馬, 長田伝重.
2. 発表標題 橈骨遠位端骨折術後患者が経験する痛みの破局化の変容における記述的考察
3. 学会等名 第8回栃木県作業療法学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 飯塚裕介, 須藤誠, 鎌田春香, 田村由馬, 長田伝重.
2. 発表標題 橈骨遠位端骨折術後患者における術後超早期管理の一考察～慢性疼痛の予防に向けて～
3. 学会等名 第8回栃木県作業療法学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鎌田春香, 須藤誠, 飯塚裕介, 赤澤祐介, 田村由馬.
2. 発表標題 「卓球がしたいです」に応えるための作業療法実践
3. 学会等名 第8回栃木県作業療法学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 餅脩佑, 赤澤祐介, 田村由馬, 矢野雄一郎, 長田伝重.
2. 発表標題 上腕骨近位部骨折後偽関節に対してReverse total Shoulder arthroplastyを施行した症例～術前から三角筋に萎縮がみられた症例～
3. 学会等名 第21回栃木県理学療法士会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 飯塚裕介, 須藤誠, 鎌田春香, 田村由馬, 長田伝重.
2. 発表標題 橈骨遠位端骨折術後患者における腕神経叢ブロック下の関節可動域測定の意義
3. 学会等名 第51回日本作業療法学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 須藤誠, 飯塚裕介, 鎌田春香, 田村由馬, 長田伝重.
2. 発表標題 橈骨遠位端骨折術後超早期における上肢管理方法の課題
3. 学会等名 第51回日本作業療法学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 工藤玲佳, 田村由馬, 須藤誠, 田宮創, 落合香, 寺島雅人, 鶴見知己, 高橋英里, 山越聖子, 安隆則.
2. 発表標題 心疾患再発予防のためのポピュレーションアプローチ
3. 学会等名 平成29年度獨協医科大学教育セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 餅脩佑, 田村由馬, 須藤誠, 君田祥一, 高橋英里, 山越聖子, 田宮創, 赤澤祐介, 飯塚裕介, 落合香, 江原恭介, 松井瞭友, 永坂優美, 寺島雅人, 工藤玲佳, 鎌田春香, 山口佳奈, 鶴見知己, 佐藤由佳, 安隆則.
2. 発表標題 日光医療センターリハビリテーション部における臨床実習と卒後教育
3. 学会等名 平成29年度獨協医科大学教育セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鎌田春香, 須藤誠, 田村由馬, 中口和彦, 矢嶋俊一, 安隆則
2. 発表標題 地域包括ケアシステム推進のための多施設リハビリ連携の取り組み
3. 学会等名 平成29年度獨協医科大学教育セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 君田祥一, 須藤誠, 飯塚裕介, 鎌田春香, 佐藤由佳, 田村由馬, 安隆則, 渡邊悠児, 渡邊由佳.
2. 発表標題 パーキンソン病患者にLSVT BIGを施行した2症例
3. 学会等名 平成29年度獨協医科大学教育セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田村由馬
2. 発表標題 重症心不全患者へのリハビリについて
3. 学会等名 第5回北関東心不全研究会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田村由馬
2. 発表標題 内部障害患者へのB-SES使用
3. 学会等名 第5回日本骨格筋電気刺激研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田村由馬
2. 発表標題 重複障害時代の心臓リハビリテーション
3. 学会等名 第11回循環器臨床作業療法研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新島昭子, 田村由馬, 岩瀬利康, 安隆則
2. 発表標題 臨床研究支援室立ち上げから医師主導型臨床研究と治験・企業治験でのCRCの役割
3. 学会等名 第38回日本臨床薬理学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安隆則, 中谷祐己, 伴場信之, 新島昭子, 田村由馬, 岩瀬利康, 植田真一郎, 大屋祐輔, 横川晃治
2. 発表標題 無作為化比較試験プロトコール：Dapagliflozin長期投与が血液流動性と白血球活性化と酸化ストレスに与える効果の検討
3. 学会等名 第38回日本臨床薬理学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安隆則, 田村由馬, 落合香, 田宮創, 星合愛, 下山正博
2. 発表標題 糖尿病性腎症にPADを合併した患者のリハビリ戦略：積極的運動療法とsedentary time短縮の意義
3. 学会等名 第8回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>獨協医科大学日光医療センター 循環器・腎臓診療チーム ホームページ https://www.dokkyomed-nmc-cv.jp/index.html Nikko Medical Center Rehabilitation ブログ https://nmcreha.wordpress.com/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	安 隆則 (Yasu Takanori) (60207967)		
研究協力者	鶴見 知己 (Tsurumi Tomoki)		